

MINAMI

新毎日

5月10日(火)
2016年(平成28年)

発行所：東京都千代田区一ツ橋1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321
毎日新聞東京本社

専門学校生らが 青パト隊を結成

県内初

専門学校を運営する
学校法人晃陽学園と盈
科学園(古河市東)、
斎藤行信理事長)は9
日、県内初の専門学校
生と教員による青色防
犯パトロール隊「盈科
ブルーファルコン」を
結成した。写真。

警察官や救急救命士
などを育成する危機管
理学科と救急救命学科
の生徒と教員約80人で
組織し、課外活動とし
て実施する。青パト1
台に3、4人が乗車、
毎週金曜日に古河市内



をパトロールする。今
年4月に開設した危機
管理学科1年の塚原翔
太さん(18)は「パトロ
ールで地域を守りた
い」と意気込む。今
県警生活安全総務課
によると、自動車に青
色回転灯を装備し、地
域を巡回して防犯を呼

び掛ける青色防犯パト
ロールの運用が県内で
始まったのは2004
年12月。4月末現在で
青パト団体は207、
パトカーは1053台

中古ピアノ買取
販売・調律(茨城)
販売・調律(全県)

ベルピアノ

029
(8399)
15691

TEL:029-8399-15691

に上る。普及に伴い、
刑法犯の認知件数は05
年5万2266件から
15年2万9085件に
減少している。

【鈴木加代子】



5月13日
金曜日

茨城新聞社

〒310-8686
水戸市笠原町978-25
電話 (029) 239-3001代
<http://ibarakinews.jp>

編集局
電話 (029) 239-3020
FAX (029) 301-0362

購読申し込みは
☎0120-029-218
(平日午前9時~午後5時)

古河の専門学校の青パト車で防犯活動



巡回車の青パト「ブルーファルコン号」に乗り込む学生。左は斎藤行信学園理事長ら＝古河市東

古河市を拠点とする学校法人盈科学園の日本生物資源危機管理専門学校（斎藤行信理事長）と晃陽学園の晃陽看護栄養専門学校（同）は9日、同学園で青色防犯パトロール出陣式を行った。

日本生物資源危機管理専門学校は、犯罪や自然災害発生時などの危機管理を学び、迅速、的確に対処できるスペシャリストの育成を目指すカリキュラムを展開しており、警察や消防署と連携し

て、青色回転灯を装備した巡回車で市内を週1回自主防犯パトロールし地域に貢献する。同学科に晃陽看護栄養専門学校救急救命学科の学生も含めた48人が今後、「盈科ブルーファルコン」として活動する。

出陣式で斎藤理事長が「知識と行動力を身に付け、奉仕を惜しまず活動してほしい」と呼び掛けた。同市の山口裕之副市長や田中忠義古河警察署長も出席し、出陣式を見守った。

学生を代表して救急救命学科2年の瓦吹直暉さん（19）が「犯罪の起きにくい環境づくりを目指す」と宣言。その後、危機管理学科1年の塚原翔太さん（18）らが車に乗り込み、巡回に出発した。



学生青パト 巡回始動

古河の2専門学校

防犯意識向上に期待

古河市の学校法人「盈科学園」と「晃陽学園」が運営する専門学校で、今月から青パトに乗って市内の防犯パトロールを始めた。専門学生による活動は県内初で、県警は「若い人たちが町を回ってくれるのはありがたい」としている。

二つの専門学校は、いずれも警察官や消防士などを目指す学生が通っている。パトロールは、両校の学生

と職員がチームとなって毎週金曜日に実施。活動前には古河署員らから心構えを学び、深刻化する認知症患者の徘徊に対応するため、認知症に関する講習も受講した。

古河市内を巡回する学生ら(13日)

初日となった今月13日は、午後4時半過ぎに青パト「ブルーファルコン」に乗って、買い物客でにぎわうJR古河駅東口の商店街や、曲がりくねった細い道が続く渡良瀬川沿い

青パト 防犯団体などが、パトロール用に青い回転灯をつけて使う「青色防犯パトロール車」。活動には県警本部長への証明申請書提出など、一定の手続きが必要。県内は5月17日現在、208団体1056台が登録している。地域の犯罪動向などを活動に生かすため、警察は原則3年ごとに講習を受けるよう求めている。

の旧城下町エリアを回った。車内から扉の隙間やごみ集積所などに異常がないかを確認。自転車の子供には「気を付けてね」などと声を掛けた。約1時間の巡回を終えた盈科学園日本生物資源危機管理専門学校の塚原翔太さん(18)は、「地元で慣れているつもりだった

が、意外と人の目が届いていないところが多かった」と話した。二つの学校法人は2月、古河市と防災や防犯に関する協定を締結しており、今月30日には古河署とも協定を締結する。同署からの防犯情報などを基に、今後は学生が複数のコースを検討し巡回。気づいた

点は報告書にまとめ、定期的な同署に伝える予定だ。県警によると、青パトで活動する人を含めて、防犯ボランティアは全体的に高齢化しているという。古河署の田中忠義署長は「地域の若者たちの防犯意識を高めるきっかけになれば」と期待する。